

事業概要シート

事務事業コード	事務事業名称	事業区分	所属コード	担当課
302010004	中学校の適切な運営方針の確保	一般	7200	学校教育課

事業開始年度	昭和63年度
--------	--------

◆事業の性質分類

<input type="radio"/>	①ソフト関係事務事業(市民サービス)	<input type="radio"/>	④施設等の維持管理的な事務事業
<input type="radio"/>	②整備関係事務事業	<input type="radio"/>	⑤行政の内部管理事務事業
<input type="radio"/>	③施設等の建設事務事業	<input type="radio"/>	⑥経常的な事務事業

【注】公の施設の維持管理的な事業で指定管理者等の導入可能性があるものは①、④の両方が該当するため両方に○印を付ける。

◆事業の背景

市民ニーズ・地域課題	関係法令、関係計画等
<p>クラブ活動にかかる競技会への遠征費用や運営経費が保護者負担となっている。 中学校のクラブ活動で、学校代表選手として対外試合に出場する生徒の保護者に対し、各種競技会選手等派遣補助金を支給し支援する。</p>	<p>長岡京市各種競技会選手等派遣補助金交付要綱</p>

◆事業の目的

【事業の対象】・利益を受ける人 ・最終的に影響を及ぼすことを予定している人、もの 等	【事業の目指す成果】・左記の対象がどのような状態になることを目指していますか ・成果として具体的に何か 等
<p>学校代表選手として対外試合に出場する生徒の保護者。 (市立中学校生徒数≒1,940人) ※平成20年度延べ人数1241人(補助額1,137,164円)</p>	<p>中学校における各種クラブ活動の活性化につながる。 保護者負担を軽減することは、生徒に対して、高い目標に向かってやる気と向上心を持たせるきっかけづくりを目指している。</p>

◆事業費の推移 (単位:円)			H19実績	H20実績	H21見込み	
収入	使用料・手数料					
	国支出金(補助率)					
	府支出金(補助率)					
	その他()					
	合 計		0	0	0	
支出	人件費 (概算)	正規職員	従事人員(人)	0.10	0.10	0.10
			人件費	800,000	800,000	800,000
		嘱託・再任用職員	従事人員(人)			
			人件費			
	事業費(予算・決算)		1,351,776	1,137,164	1,076,000	
合 計		2,151,776	1,937,164	1,876,000		
収支	一般財源充当額		2,151,776	1,937,164	1,876,000	
	対象者あたり一般財源充当額		(母数:中学生1,833人) 1,173/人	(母数:中学生1,884人) 1,028/人	(母数:中学生1,940人) 967/人	

主な事業費の詳細 (H21見込み)	各種競技会選手等派遣補助金 960,000円 校長会負担金 80,000円
-------------------	--

◆事業の内容			
事業の手法		事業の内容	
○	直営	中学校体育連盟または吹奏楽連盟主催で、原則として乙訓地域以外で実施される乙訓大会以上の広域競技への参加者を対象として、参加する際にかかる旅費の一部を補助し、保護者負担を軽減している。	
	全部委託		
	一部委託		
	指定管理		
	その他		
◆事業の類似			
市における類似事業について		なし	近隣市町における類似事業について 大会の規模により実施している
◆過去の経過			
これまでの課題		左記の課題への、これまでの対応	
選手の他に、同行する補助員に対する旅費をどこまで支援するかが課題である。		原則として、補助員は1名までを補助対象としていますが、大会要項に記載がある場合は、その記載人数まで補助対象を拡大している。	
◆現状の分析と課題			
①【必要性】・現在も市民に必要とされる事業か ・環境変化により事業目的は薄れてないか ・廃止した場合の影響は何か		②【市関与の妥当性】・市が行うべき事業か ・類似事業を行う他団体はないか ・市が行わない場合の影響は何か	
近畿大会や全国大会などに出場する生徒(保護者)への支援は必要であると思われる。 結果として一部の生徒に対する補助になるため、公平性を欠くところがある。 廃止すれば保護者の負担が増え、クラブ活動も自粛傾向となる。		市以外では実施できない。また、類似の事業を行っている団体は無い。 学校のPTAなどからの支援は難しい状況である。	
③【手法の適正】・現在の手法は最も適正なものであるか ・手法を変更する可能性はないか ・変更する場合の課題は何か		④【その他の課題】・現在の内容で目的は果たせるか ・経費や時間等に無駄はないか 等	
結果として一部の生徒に対する補助になっているが、全ての生徒には平等に機会を与えられているため、適正な支援であると判断している。 また、補助率は、乙訓大会50%、山城大会60%、全国大会70%としている。		経費的には、予算の範囲内としています。 年度により全国大会への出場者が多い場合は、補正でも対応できないことが考えられる。	
◆今後の方向性と課題への対応			
方向性		【方向性の理由と想定される課題への対応】	
○	継続	乙訓、山城、近畿そして全国に、学校を代表して出場する資格を得た生徒を激励するという意味を持っている。 大きな大会への出場資格獲得を積極的に奨励するためにも補助金を継続していく必要がある。	
	拡大		
	縮小		
	統合		
	外部委託		
	廃止		
	その他		
所属長コメント(事業の展望)			
学校・保護者からの要望と他に類似の事業がないこともあり、自らの思いをクラブ活動にかける生徒たちの人間形成という教育的配慮からも、各種競技会の参加にかかる負担に対する支援は必要であると考えます。			